

審判委員会

2022年度 第3回 都市協会合同

審判トレーニングセンター 開催報告



開催/参加協会
丹有協会・尼崎協会・北摂協会

【開会挨拶】

トレセン開催にあたって



- ・ トレセンの目的
- ・ スケジュール
- ・ 校内での諸注意

丹有協会：松山審判委員長 挨拶

都市協会合同審判トレセンもこれが最終となる第3回目を丹有で開催。

当初の計画では1月29日に実施する予定でしたが、10年に一度の猛烈寒波襲来により兵庫北部に大雪警報が発令。積雪の影響もあり安全第一と考え、3日前に延期を決定し、その後日程を再調整して今回開催へと漕ぎつけました。

このような経緯がある中、2023年3月19日に丹波市にある県立柏原高校のご協力を得て審判トレセンを行うことができましたので、ここに報告いたします。

2022年度の活動テーマ

【動き出し】

北摂協会審判委員長の村田氏より、本日の実践研修における審判割当てを改めて発表/確認しました。

また各インストラクターも通常の指導に加え、順番を入れ替えながらビデオ撮影にもご協力いただきました。

合同トレセンの良さの1つとして、これまでほぼ面識のない審判仲間と対面する事で横の繋がりが出来、協会の枠を超え情報交換あるいは提供する等、双方向でのやり取りが始まる可能性があります。

この日を機にレフェリーチームとして連携を深め、今後の活動に繋がるような研修の場にしていただきたいと思います。



全参加者からの自己紹介を終え、次なる舞台となるフィールドへ足を運びます。

試合準備として審判団はラインの歪み等を確認。インストラクターはビデオの設置を慌ただしく行いました。

成り立つもの

実践研修に欠かせないもの。それは試合であり、選手であり、監督・コーチ・マネージャーであり、保護者の方々、会場運営されている方等、多くの関係者が関わって実現出来ている事を忘れてはいけません。

今回も柏原高校サッカー部をはじめ、神戸科学技術高校サッカー部、氷上中学校サッカー部のご理解とご協力のもと6試合設定していただきました。深く深く感謝申し上げます！



多く試合設定をしていただいたお陰で、実技トレーニングの機会も多く取れました。

メインテーマを念頭に置き、早いスタートを切る場面も随所に見られ、それが良い判定に繋がっていました。ですが、足りない所も見受けられ、まだまだ成長の余地アリ、と感じました。どんな物でも誰もが最初から上手くいくはずもなく、トライ&エラーを繰り返していく事で上達していきます。

そこで、審判インストラクターの出番。試合後、テント裏で円状になって振り返りを行い、称賛と課題への助言がありました。

**なぜ「動き出し」に
焦点を当てたのか？**

**常に意識下に置く事で、
どんな変化があった？**

実践トレーニング



試合前の1コマ。審判チームによる「打ち合わせ」風景。

各審判員の役割を確認。アイコンタクトによる情報交換・タッチジャッジの判定・オフサイドの判定・ゴールの判定・ファウルサポート・シグナルキャンセル時の対応・PK判定（ペナルティーエリアの内か外か等、判定精度を高める為の大事な会議時間。



練習試合ではありましたが、私たちのトレーニングにお付き合いいただく為に、毎試合開始前の用具チェック・コイントス・整列にご協力いただきました。ありがとうございました。



“動き出し”は主審だけの話ではありません。副審も常にオフサイドライン（守備側競技者の後方から2人目の位置）をキープしながら時にトップスピードで走ってくるFW選手を追う場面が幾度となくあります。

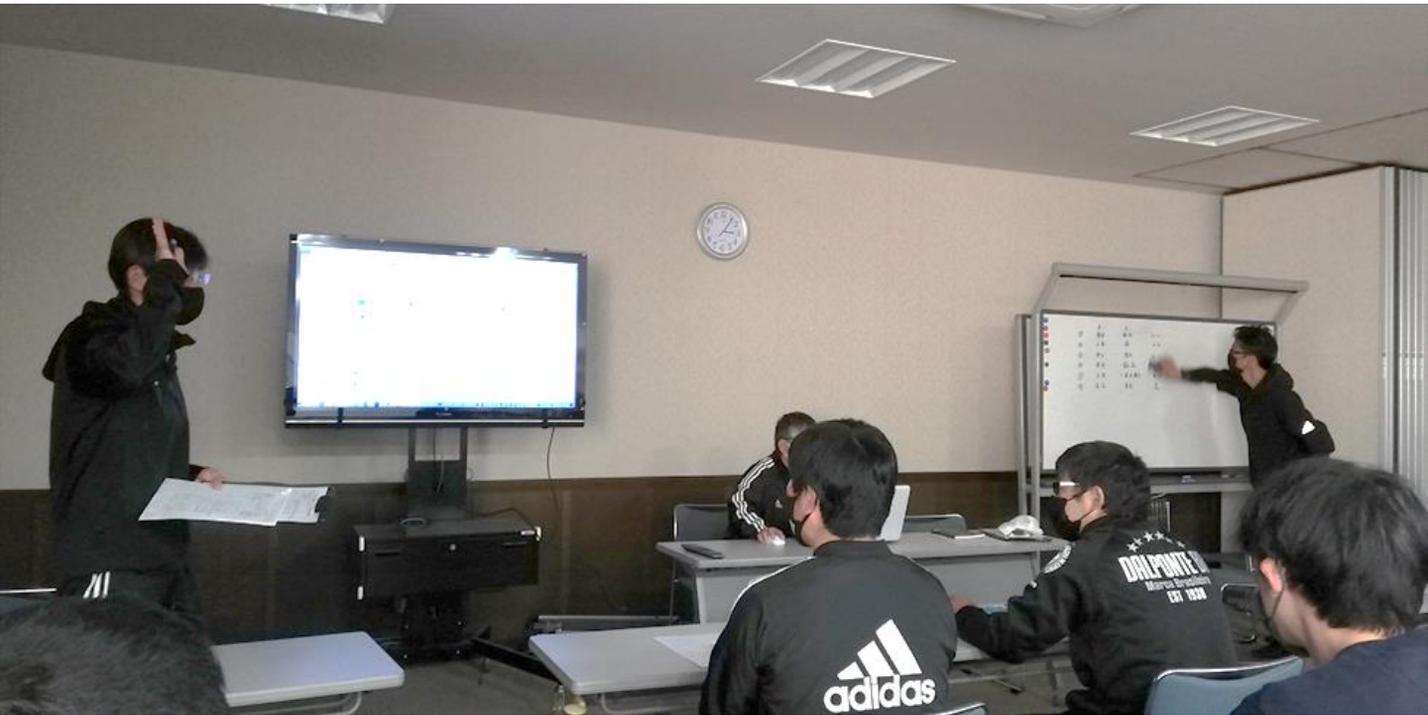
よって、ボールと選手の位置を把握しておく等、予測と準備を怠ってはいけません。



試合後も“動き出し”を中心に振り返りを行いました。出来た部分、そうでない部分を切り分けて指導する事で、成果と課題が見えてきます。

今回は1人につき複数回活動が出来たので、即時次の試合で課題解決に向けた取り組みが出来た事で多くの収穫がありました。

映像分析



試合後にテント裏で各審判チーム単位で振り返りを行いました。全員での共通課題/認識を持たせる為に研修室に戻り、改めて担当インストラクターから映像をもとに指導を行いました。

映像担当は、尼崎協会審判委員長の柴田氏。必要な時に必要な場面を映し出します。実際に初めて自分の動きを見た審判員から「こんな風に見えるのですね。中に入って見ているのと、少し感覚が違いますね。」との感想が。

山本インストラクターによる映像分析では「良い動き出し例」と「遅れた動き出し例」が挙げられ、後者のシーンでは、争点から離れていた為、事象が見えにくく「ファウルが取れなかったのでは？」との問いかけがありました。

繰り返しその事象を全員で観察・検証してみると「ボールがサイドに出た



時点で縦方向にボールが入る事が予想されるので、この時先に縦へ動き出せば争点から離されず、良い位置で判定できたのでは？」と、短い時間の中にも深い議論が展開されました。

その後、同じような流れで残りの5チームも主審の見解も聞きながら活発な意見交換が行われ、多くの気づきや発見を得たトレセンとなりました。

【 2022年 兵庫県レフェリートレセン丹有会場 活動内容】

日程	3月19日(日) 9時00分～16時00分			
参加都市協会	丹有、尼崎、北摂、(但馬:延期により調整つかず)			
会場	兵庫県立柏原高等学校 グランドならびに研修室			
テーマ	「動き出し」			
備品	プロジェクター、ビデオ・三脚セット、延長コード(丹有協会準備) ノートPC(各自)			
参加者名 (敬称略)	審判員	小園祐二(尼崎協会)井口 健治、奥谷剛、塩見隆、柴崎幹也、長尾 健志、船川 義政森 裕介(北摂協会) 全員S3		
	インストラクター	田原 徳人(SI3)、塚本 恭一(新SI2)、山本 学史(SI3)、石田 信久(新SI3)		
	スタッフ	柴田・松山・村田・神田(各都市協会委員長)・船田		
		集合時間	9時00分	
時間	3月19日(日) 9時00分～16時00分		解散時間	16時00分
9	9:00～	スタッフ集合 会場: 柏陵会館(校門入りすぐ左の建物)	備考	
	9:20～	オープニング(担当:丹有協会・松山)	(問い合わせ先)	
	9:30～	審判員、インストラクター試合準備	丹有協会:松山	
10	10:00～ 10:40	試合① 柏原高校VS神戸科学技術高校 R:奥谷 AR1:塩見 AR2:船川	(会場詳細) ●兵庫県立柏原高等学校 〒669-3302 丹波市柏原町東奥50	
	11	10:50～ 11:30		試合② 柏原高校VS神戸科学技術高校 R:小園 AR1:森 AR2:長尾
12	11:40～ 12:10	試合③ 柏原高校VS神戸科学技術高校 R:井口 AR1:船川 AR2:奥谷		
	12:20～ 12:50	試合④ 柏原高校VS神戸科学技術高校 R:柴崎 AR1:長尾・森 AR2:塩見		
13	12:50～ 13:30	昼食		
	13:30～ 13:55	試合⑤ 氷上中学校 VS 柏原高校 R:小園 AR1:奥谷・船川 AR2:井口		
14	14:05～ 14:30	試合⑥ 氷上中学校 VS 柏原高校 R:長尾 AR1:柴崎 AR2:森		
15	15:00～ 16:00	映像による振り返り・質疑 (進行:丹有協会・松山 担当各試合のINS 約8分/1人)	(備考) ・服装は自由。(ジャージ可) ・審判服着用(手袋、スバツツ可) ・駐車場は学校校門を入り1番奥まで進んだところの駐車場をご利用ください。 ・各試合 2名記載は15分で交代 ・インストラクター割当 ①④田原 ②⑥山本 ③石田 ⑤塚本	
16	16:00～ 16:30	スタッフ振り返り		
17			(その他) ・昼食は各自準備または事前申込	

【総括】 ～合同トレセン3会場～

3年の時を経て、都市協会合同審判トレセンを無事開催することができ、胸を撫でおろしているところです。ご協力いただいた全ての方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

企画当初は但馬協会から総勢10名以上の関係者が丹有会場を訪れる予定でしたが、2月中旬の積雪の影響で延期を余儀なくされ、今回調整がつかず残念ながら参加が見送られる事に…。このイレギュラー以外は全てスムーズに会が進められ、参加者のスキルアップに繋がりました。



淡路会場
2023.01.15



西播磨会場
2023.02.12



丹有会場
2023.03.19

振り返ってみると、同じテーマであってもスケジューリング・試合のレギュレーション・アプローチの仕方等、三種三様となり、いい意味で地域特性が出たトレセンであったと感じます。

ただし、根幹となる「競技規則の精神」「指導ポイント」「都市協会間の連携」はブレる事なく出来た為、参加者の表情や感想を見聞きした時に、一定の成果が出せたのでは？と思っています。

動き出しについては、良いポジションで判定する為に非常に重要なファクターとなります。普通にボールを蹴った場合、人が走るより早いスピードで移動する為、物理的に同じ位置からスタートすればボールに追いつく事はほぼ不可能と言っても過言ではありません。

これにより今の状況を見て次の展開を予測して、起こるであろう次の争点目指して早い段階で移動しておく事が肝となる訳です。参加された審判員に今回のテーマによって“気づき”を与える事が出来たのであれば幸いです。今後も益々の活躍を期待しております。

これにて3年ぶりのトレセンを無事終了しました。2023年度は日程ならびに開催会場・参加協会の変更があると思いますが、また別のテーマを設け、よりよいスキルアップの場・機会となるよう準備して参りますので、ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

[報告者] 委員長部会担当：神田哲也